＜第１回＞
琴浦町人権・同和教育に関する意識調査
報　告　書

概要版

琴浦町として初めての「琴浦町人権・同和教育に関する意識調査」を、平成 22 年（2010 年）3 月に実施しました。

今回、調査結果を分析、考察した報告書の概要版を作成し公表することにより、部落差別をはじめあらゆる差別のない人権尊重社会の実現に向け、町民の皆様のご理解が深まり、積極的に参画されることを期待します。

調査の概要

１．調査目的

これまでの琴浦町及び旧両町の人権・同和教育の取り組みの成果と課題を明らかにし、今後のより効果的な人権・同和教育の推進を図る。

２．実施主体　琴浦町

３．調査期間　平成 22 年（2010 年）3 月 24 日～30 日

４．調査対象

①住民基本台帳及び外国人登録原票から無作為抽出した 20 才以上の町民 1,800 人を対象とした。

②「20 才代」、「30 才代」、「40 才代」、「50 才代」、「60 才代」、「70 才以上」の各年代で男女各 150 人を抽出した。

５．調査方法

①調査対象者に調査票を郵送し、調査票の回収は琴浦町役場職員が行った。

②調査票の提出は無記名とした。

６．調査票回収率

84.0%〔調査票回収数 1,512 人／調査票配布数（対象者数）1,800 人〕

７．調査結果の分析・考察

①「琴浦町住民意識調査分析・考察委員会」により分析・考察を行った。

②①の分析・考察結果を基に、「琴浦町あらゆる差別をなくする審議会及び同施策推進プロジェクトチーム合同会議」で審議した。

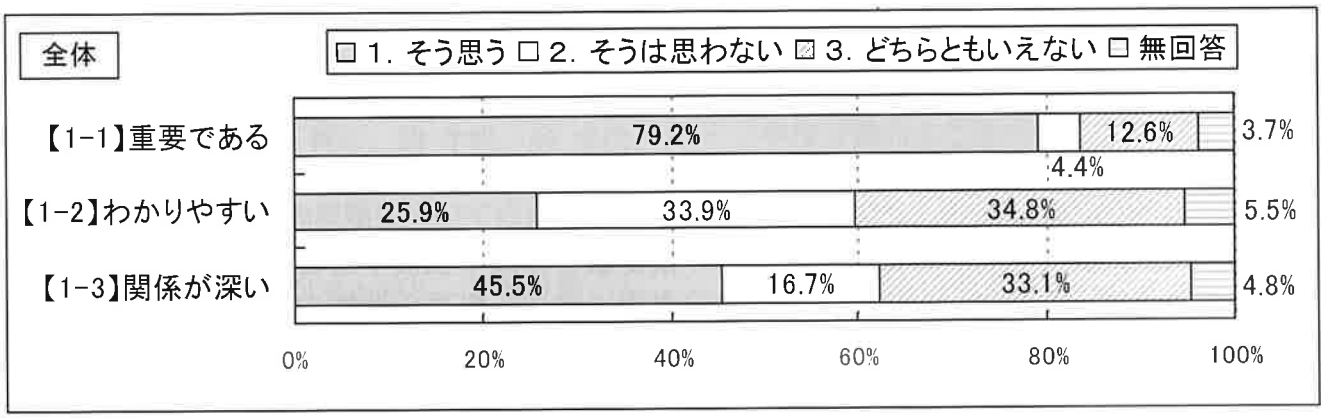
※調査票は全部で２０の質問がありますが、今回の概要版では、【質問１、２、６－１、７、１２、１４、１８】を抜粋し、ご紹介します。

人権のイメージについて

質問１　あなたは「人権」ということについて、どのようなイメージ（印象、感想）を持っていますか。

【１－１】重要である。　【１－２】わかりやすい。　【１－３】自分に関係が深い。

1　そう思う。
2　そうは思わない。
3　どちらともいえない。



● 人権については、**約 8 割の人が「重要だ」と思っている**が、「わかりやすい」と思っているのは約 2.5 割、「自分に関係が深い」と思っているのは約 4.5 割だった。

様々な啓発や学習が、「人権」を抽象的、道徳的なものに捉えさせ、人が生きていく上で具体的に必要な権利という認識を促すものになっていないと指摘できる。

自分の人権について

質問２　あなたの人権は守られていると思いますか。

1　そう思う。
2　そうは思わない。
3　わからない。

	1. そう思う		2. そうは思わない		3. わからない		無回答		合計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数
20 才代	75	37.1%	26	12.9%	96	47.5%	5	2.5%	202
30 才代	83	33.9%	50	20.4%	107	43.7%	5	2.0%	245
40 才代	97	36.5%	61	22.9%	99	37.2%	9	3.4%	266
50 才代	85	30.9%	77	28.0%	102	37.1%	11	4.0%	275
60 才代	101	36.6%	74	26.8%	84	30.4%	17	6.2%	276
70 才以上	113	48.3%	31	13.2%	75	32.1%	15	6.4%	234
年代無回答	1	7.1%	3	21.4%	1	7.1%	9	64.3%	14
全　体	555	36.7%	322	21.3%	564	37.3%	71	4.7%	1,512

● 全体では、**「３．わからない」が 37.3%で最も高い。**「１．そう思う」が 36.7%で、「２．そうは思わない」21.3%を 15 ポイント以上上回る。

年代別でみると、「１．そう思う」は、70 才以上の 48.3%が最も高く、最も低い 50 才代と 17.4 ポイントの差がある。また、どの年代も「３．わからない」が高いが、特に 20 才代、30 才代が高い。

人権が守られているかどうか、学習の中で気づくことができるが、学習・啓発の内容にバラつきがあり、人権侵害や差別を、個人と個人の間で発生する問題としてだけ捉えているため、自分の人権は「守られている」、「わからない」と答えた人が多いのではないか。

学習の機会について（参加回数）

質問６－１　あなたは過去５年間に、人権・同和教育の講演会や研修会に参加されたことがありますか。

1　１０回以上参加した。
2　５～９回参加した。
3　１～４回参加した。
4　参加したことがない。

		1．10 回以上		2．5～9 回		3．1～4 回		4．参加したことがない		無回答		合計人数
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
20 才代	男	2	2.1%	7	7.4%	30	31.9%	52	55.3%	3	3.2%	94
	女	3	2.8%	6	5.6%	35	32.4%	62	57.4%	2	1.9%	108
	計	5	2.5%	13	6.4%	65	32.2%	114	56.4%	5	2.5%	202
30 才代	男	4	3.6%	10	8.9%	42	37.5%	52	46.4%	4	3.6%	112
	女	15	11.3%	23	17.3%	44	33.1%	49	36.8%	2	1.5%	133
	計	19	7.8%	33	13.5%	86	35.1%	101	41.2%	6	2.4%	245
40 才代	男	10	8.6%	24	20.7%	43	37.1%	36	31.0%	3	2.6%	116
	女	28	18.8%	36	24.2%	66	44.3%	17	11.4%	2	1.3%	149
	無	1	100%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1
	計	39	14.7%	60	22.6%	109	41.0%	53	19.9%	5	1.9%	266
50 才代	男	19	15.2%	25	20.0%	52	41.6%	26	20.8%	3	2.4%	125
	女	25	16.7%	27	18.0%	56	37.3%	37	24.7%	5	3.3%	150
	計	44	16.0%	52	18.9%	108	39.3%	63	22.9%	8	2.9%	275
60 才代	男	7	5.6%	32	25.4%	48	38.1%	36	28.6%	3	2.4%	126
	女	11	7.3%	34	22.7%	59	39.3%	39	26.0%	7	4.7%	150
	計	18	6.5%	66	23.9%	107	38.8%	75	27.2%	10	3.6%	276
70 才以上	男	7	6.3%	17	15.3%	50	45.0%	32	28.8%	5	4.5%	111
	女	5	4.1%	6	4.9%	46	37.4%	55	44.7%	11	8.9%	123
	計	12	5.1%	23	9.8%	96	41.0%	87	37.2%	16	6.8%	234
年代性別無回答		0	0.0%	0	0.0%	2	14.3%	1	7.1%	11	78.6%	14
全　体		137	9.1%	247	16.3%	573	37.9%	494	32.7%	61	4.0%	1,512

● 全体では、「３．1～4 回」が 37.9％で最も高く、「４．参加したことがない」32.7％、「２．5～9 回」16.3％、「１．10 回以上」9.1％の順である。1 回以上学習経験のある人は 63.3％だが、研修会に継続して参加し、学習を積み重ねている人が多いとは言えない。

年代別でみると、20 才代は「４．参加したことがない」が 56.4％と最も高く、5 回以上は 1 割にも満たない。また、30 才代と 70 才以上も「４．参加したことがない」の割合が高い。

年代男女別でみると、40 才代の男女で大きな差が見られる。女性は 1 回以上の学習経験が 87.3％で、年代男女中最も高く、約 9 割が講演会や研修会に参加したことがある。一方、男性は 1 回以上の学習経験が 66.4％、「４．参加したことがない」は 31.0％で、男女で約 20 ポイントの差がある。

また、70 才以上をみると、女性の学習経験が 46.4％と、男性を約 20 ポイント下回る。これは、20 才代に次いで低い割合である。

20 才代、30 才代の若年世代と、70 才以上女性の学習経験の少なさは大きな課題である。

人権・同和教育についての感想

質問７　人権・同和教育は、学校教育や社会教育で取り組まれています。
あなたは、これまでに参加された講演会や研修会、同和教育部落懇談会（小地域懇談会）などで、どのような感想をもたれましたか。あなたの考えに近いものを選んでください。（２つ以内）

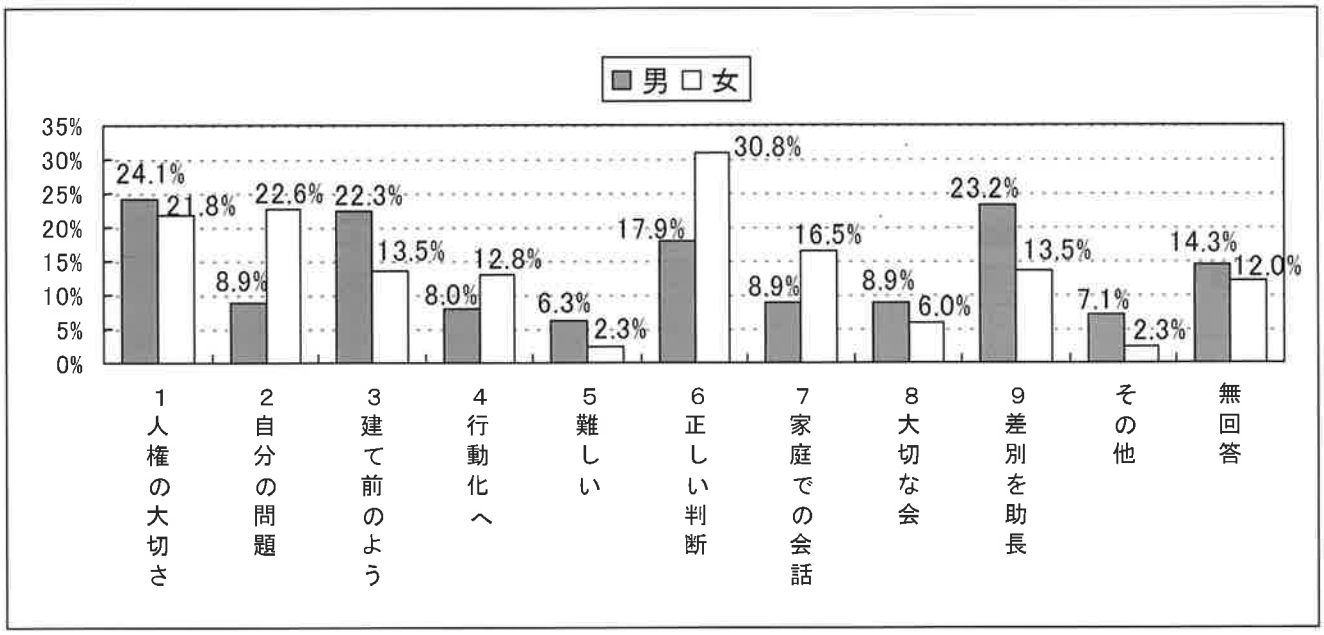
1　自分の人権と同じように、他人の人権についても大切なことがわかった。
2　人権問題は、自分の生活と深く関係があるとわかり、自分自身の問題として、これからも人権・同和教育の取り組みに参加したいと思う。
3　建て前のような内容が多いし、自分の生活とかけ離れていて、毎日の人間関係に活かすのは難しいと思う。
4　部落問題を通して、生活の中での不合理な因習や迷信、さまざまな差別にも気づけるようになり、自分も何かしなければならないと思う。
5　話が難しくて、よくわからなかった。
6　幼い頃からの取り組みを通して、人権意識を高めたり、さまざまな情報に対して、自分で考えたり、正しい判断ができるようになると思う。
7　出席することで、いろいろ気づくことが多くあり、子どもたちと家庭での会話が進んでもてるようになった。
8　個人同士や、部落での寄りあいなどで、人間の大切さや人権尊重について、あらたまって話し合うのは難しいので、同和教育部落懇談会（小地域懇談会）は大切な会だと思った。
9　このような会をいつまでも続けることが、差別を助長させると思った。

	1 人権の大切さ	2 自分の問題	3 建て前のよう	4 行動化へ	5 難しい	6 正しい判断	7 家庭での会話	8 大切な会	9 差別を助長	その他	無回答	回答者数
20 才代	34.7%	12.9%	20.8%	9.9%	2.0%	20.8%	5.0%	8.4%	23.3%	9.9%	9.4%	202
30 才代	22.9%	16.3%	17.6%	10.6%	4.1%	24.9%	13.1%	7.3%	18.0%	4.5%	13.1%	245
40 才代	26.3%	21.1%	19.9%	15.4%	3.8%	25.2%	18.8%	7.1%	13.9%	6.8%	9.0%	266
50 才代	26.2%	20.7%	25.5%	13.5%	6.2%	20.7%	9.8%	17.8%	13.8%	5.8%	9.8%	275
60 才代	24.6%	15.9%	22.8%	10.9%	5.4%	14.9%	9.4%	18.1%	16.3%	7.6%	17.0%	276
70 才以上	26.9%	7.7%	20.1%	9.0%	4.3%	12.0%	6.4%	17.1%	22.2%	5.1%	21.4%	234
年代無回答	14.3%	21.4%	0.0%	7.1%	0.0%	7.1%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	64.3%	14
全　体	26.5%	16.1%	21.0%	11.6%	4.4%	19.6%	10.6%	12.9%	17.4%	6.5%	13.8%	1,512

●　全体では、「１．人権の大切さ」が 26.5%で最も高い。次いで「３．建て前のよう」21.0%、「６．正しい判断」19.6%、「９．差別を助長」17.4%、「２．自分の問題」16.1%と続く。
　複数回答だが、「１．人権の大切さ」、「２．自分の問題」、「４．行動化へ」、「６．正しい判断」、「７．家庭での会話」、「８．大切な会」という肯定的、積極的な回答は約６割である。しかし、**知識としての理解にとどまり、行動化するところまでは高まっていない現状がみられる。**
また、「３．建て前のよう」、「９．差別を助長」など否定的、消極的な回答は約 27%である。

年代男女別でみると、30 才代、40 才代の男女差が顕著である。

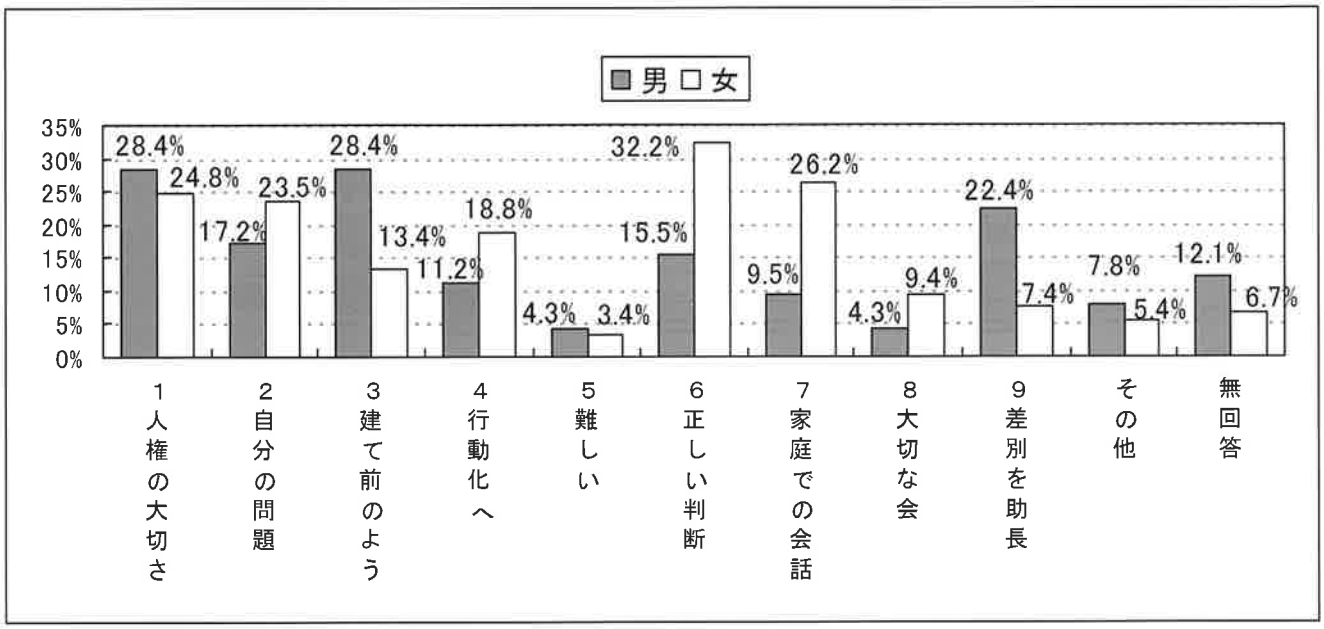
３０才代



● 男性は「１．人権の大切さ」が 24.1%で最も高いが、「９．差別を助長」23.2%、「３．建て前のよう」22.3%と、否定的、消極的な回答の割合が女性より約 9～10 ポイント高い。

一方、女性は「６．正しい判断」が 30.8%で男性より約 13 ポイント高く、「２．自分の問題」は約 14 ポイント、「７．家庭での会話」も約 8 ポイントと、男性より肯定的、積極的な回答の割合が高い。

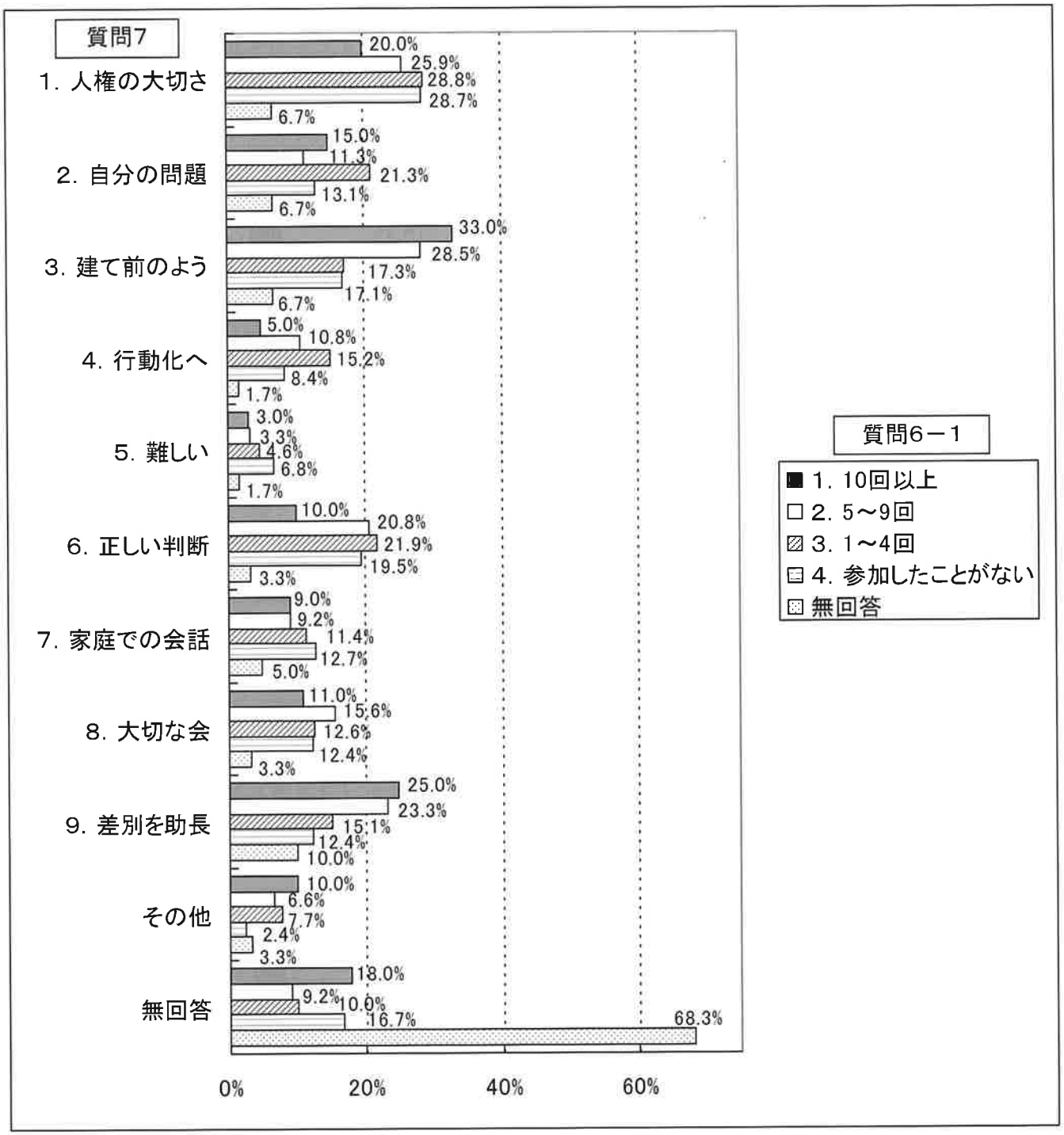
４０才代



● 女性は「６．正しい判断」が 32.2%で最も高い。さらに、「７．家庭での会話」、「２．自分の問題」、「４．行動化へ」についても、年代男女中最も高く、男性の割合を大きく上回る。

一方、男性は「１．人権の大切さ」と「３．建て前のよう」がいずれも 28.4%と最も高い。また、「９．差別を助長」も高い割合である。2 つの否定的、消極的な回答については、いずれも女性より 15.0 ポイント高い。また、「８．大切な会」は、年代男女中最も低い。

【質問７（研修会等の感想）と質問６－１（研修会等への参加回数）との関連】



● 研修回数が増えるにしたがって、「１．人権の大切さ」、「６．正しい判断」、「２．自分の問題」、「４．行動化へ」などの肯定的、積極的な回答の割合は減少している。一方、「９．差別を助長」、「３．建て前のよう」とする否定的、消極的な回答は、研修会等に「参加したことがない」とする回答の割合に比べ、約２倍増加している。

● 20 才代、30 才代は、否定的、消極的な回答が 70 才以上に次いで高い。
また、40 才代以上は、肯定的、積極的な意見が多いが、学習することで、逆に「寝た子を起こすな」意識を高めてしまっている場合もある。研修会等への参加が「半強制的」と受け止められ、さらに、研修内容が普遍的な人権の視点を欠き、一方的に知識や理解を求めるような学習方法に偏っていなかったか、真摯（しんし）に検証すべき課題である。

部落差別の認識について

質問１２　部落差別が今でもあると思いますか。

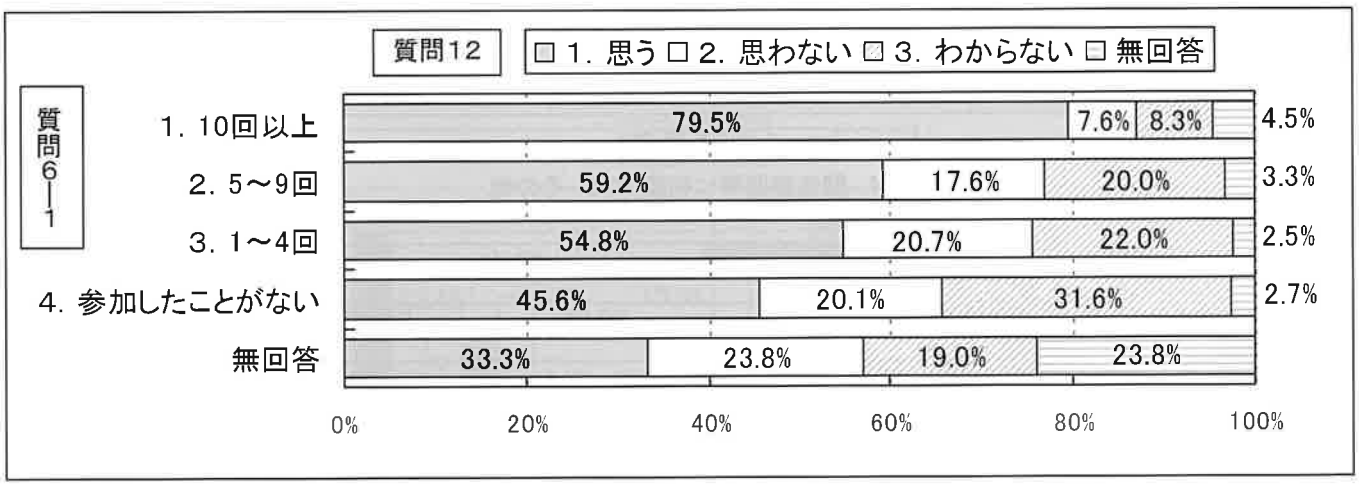
1　思う。
2　思わない。
3　わからない。

	1. 思う		2. 思わない		3. わからない		無回答		合計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数
20 才代	98	50.0%	29	14.8%	67	34.2%	2	1.0%	196
30 才代	144	60.5%	31	13.0%	60	25.2%	3	1.3%	238
40 才代	182	70.8%	22	8.6%	50	19.5%	3	1.2%	257
50 才代	168	64.1%	36	13.7%	50	19.1%	8	3.1%	262
60 才代	115	43.4%	75	28.3%	61	23.0%	14	5.3%	265
70 才以上	72	33.6%	77	36.0%	49	22.9%	16	7.5%	214
年代無回答	3	75.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%	4
全　体	782	54.5%	270	18.8%	338	23.5%	46	3.2%	1,436

● 全体では、**「１．思う」が 54.5%で最も高い。**「３．わからない」23.5%、「２．思わない」18.8%と続く。

年代別でみると、「１．思う」は 40 才代が最も高く、最も低い 70 才以上とは約 37 ポイントの差がある。70 才以上については、「２．思わない」が最も高く、「１．思う」を 2.4 ポイント上回る。

【質問１２（部落差別の存在の認識）と質問６－１（研修会等への参加回数）との関連】



● 研修会等に「10 回以上」参加している人で、部落差別が今でもあると「１．思う」と答えたのは、79.5%である。これは、「参加したことがない」人の 45.6%より、約 34 ポイント高い。

また、「10 回以上」参加している人は、「２．思わない」7.6%と「３．わからない」8.3%を合わせると 15.9%である。しかし、「参加したことがない」人は、「２．思わない」20.1%と「３．わからない」31.6%を合わせると 51.7%で、「10 回以上」より約 36 ポイント高い。

● 部落差別の存在認識は問題解決の出発点であるが、「1～4 回」と「5～9 回」の学習経験では「２．思わない」「３．わからない」とする割合に大差はなく、「10 回以上」の**継続した学習経験で、はじめて部落差別の現実を認識できる**といえる。

差別行為への対応について

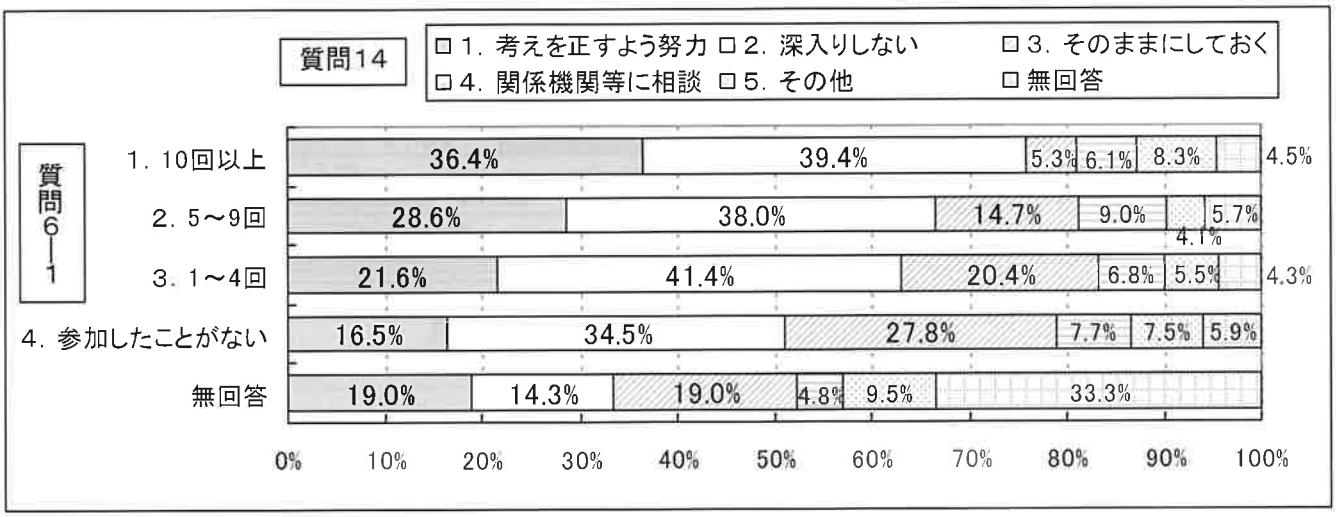
質問１４　あなたの周りや親しい人の間で、差別的な発言や行為を見たり、聞いたりした場合どうされますか。あてはまるものを選んでください。（１つ）

1　その人の考え（間違い）を正すように努力する。
2　一応間違いを指摘するが、あまり深入りしないようにする。
3　気まずくならないよう、そのままにしておく。
4　身近な人や関係機関に相談する。
5　その他。

	1．考えを正すよう努力		2．深入りしない		3．そのままにしておく		4．関係機関等に相談		5．その他		無回答		合計人数
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
20才代	48	24.5%	76	38.8%	27	13.8%	20	10.2%	21	10.7%	4	2.0%	196
30才代	56	23.5%	86	36.1%	44	18.5%	23	9.7%	21	8.8%	8	3.4%	238
40才代	66	25.7%	118	45.9%	35	13.6%	19	7.4%	12	4.7%	7	2.7%	257
50才代	62	23.7%	101	38.5%	57	21.8%	17	6.5%	12	4.6%	13	5.0%	262
60才代	51	19.2%	97	36.6%	68	25.7%	13	4.9%	12	4.5%	24	9.1%	265
70才以上	37	17.3%	67	31.3%	62	29.0%	13	6.1%	12	5.6%	23	10.7%	214
年代無回答	2	50.0%	0	0.0%	1	25.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	4
全　体	322	22.4%	545	38.0%	294	20.5%	106	7.4%	90	6.3%	79	5.5%	1,436

●　全体では、「２．指摘するが深入りしない」が38.0%で最も高く、「１．考えを正すよう努力する」が22.4%で続く。また、「４．関係機関等に相談する」は7.4%である。これらを合わせると、**67.8%の人が、差別に気づいた時、何らかの行動を意識している**と言える。

【質問１４（差別行為への対応）と質問６－１（研修会等への参加回数）との関連】



●　差別行為への対応として、何らかの行動を考える人は67.8%である。これは県の「同和問題についての県民意識調査」〔平成17年(2005年)実施〕、旧赤碕町の「同和教育に関する町民意識調査」〔平成14年(2002年)実施〕と比較して高いとは言えない。

一方、「３．そのままにしておく」とする人は20.5%で、これは県調査と比較し約9ポイント高い。しかし、この差別を容認、助長する態度は、継続的な学習の積み重ねでその変容を期待できる。問題とすべきは、最も多い「２．指摘するが深入りしない」とする人の、差別行為を許さない態度への変容を促すことであろう。

解決方法について

質問１８　部落問題の解決のためどのようなことを行ったらよいか、あなたの考えに近いものを選んでください。（２つ以内）

1　学校・社会教育を通じて、人権意識を育て、差別をなくす活動などに積極的に参加する。
2　部落問題を一人ひとりが自分の問題としてとらえて行動する。
3　被差別部落の人々自身が、差別されないようにする。
4　そっとしておけば自然になくなる。
5　被差別部落の人々に安定した仕事を保障し、生活力を高める。
6　被差別部落の人々の教育水準を高める。
7　被差別部落の住宅や生活環境を改善・整備する。
8　部落問題には関わりたくない。
9　わからない。
10　その他。

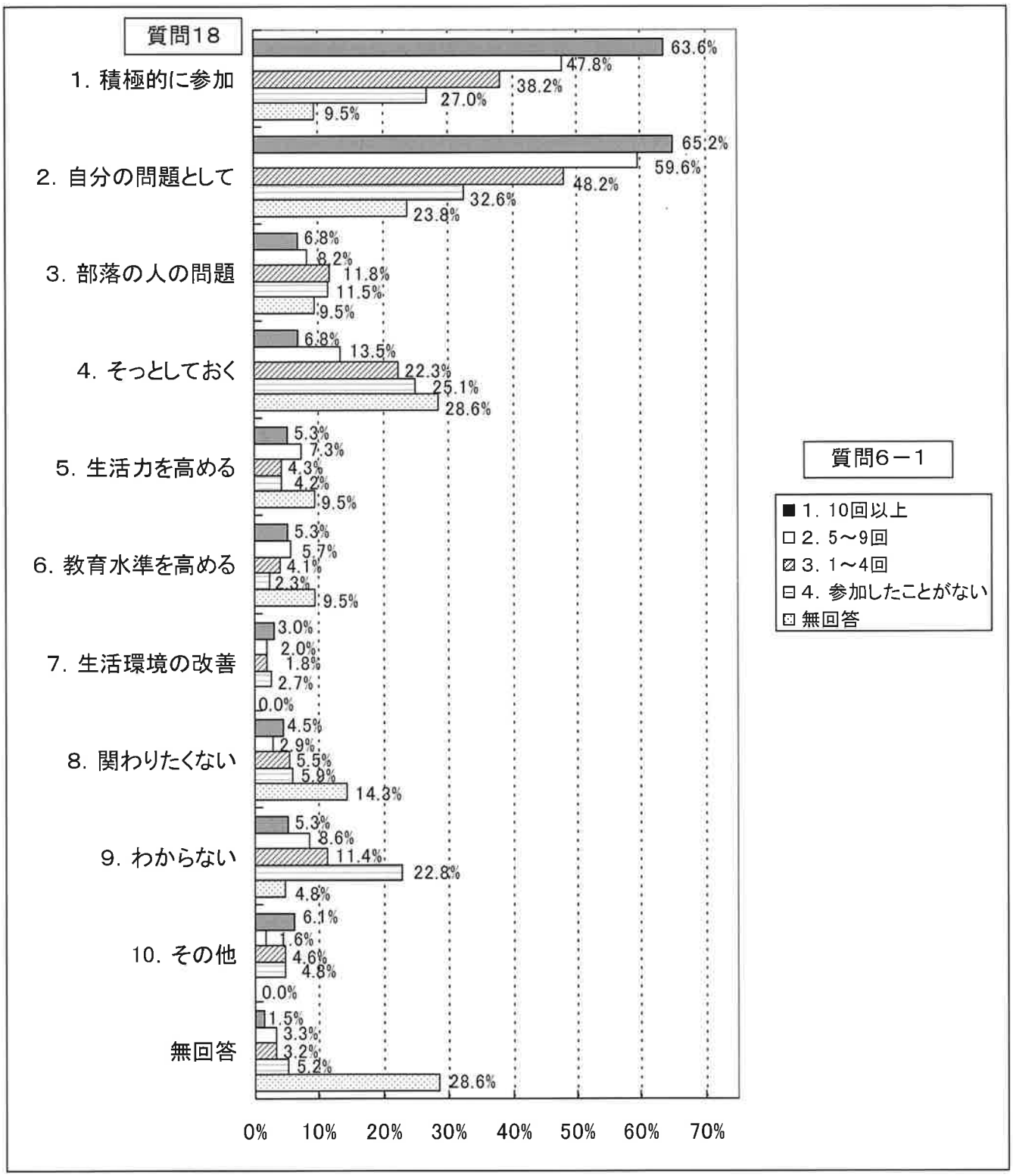
	1 積極的に参加	2 自分の問題として	3 部落の人の問題	4 そっとしておく	5 生活力を高める	6 教育水準を高める	7 生活環境の改善	8 関わりたくない	9 わからない	その他	無回答	回答者数
20 才代	38.3%	39.3%	2.6%	19.9%	3.6%	1.5%	3.6%	3.1%	20.9%	6.6%	2.0%	196
30 才代	44.1%	45.4%	4.2%	9.7%	3.8%	2.5%	2.9%	3.8%	13.9%	7.1%	4.2%	238
40 才代	45.5%	54.5%	7.4%	14.4%	4.7%	4.3%	2.7%	5.4%	11.3%	3.1%	1.6%	257
50 才代	43.1%	52.3%	7.3%	17.2%	6.1%	5.0%	2.7%	5.0%	14.1%	1.9%	3.4%	262
60 才代	32.5%	49.4%	17.0%	26.0%	6.4%	4.2%	0.8%	4.9%	11.3%	3.8%	6.0%	265
70 才以上	23.4%	32.7%	25.2%	37.4%	4.7%	6.1%	0.9%	9.3%	15.0%	3.7%	5.6%	214
年代無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	4
男	35.3%	42.7%	13.4%	24.4%	5.2%	4.6%	2.5%	6.5%	12.7%	4.9%	2.9%	651
女	40.4%	49.2%	8.3%	17.2%	4.7%	3.5%	2.1%	4.2%	15.3%	3.7%	4.6%	780
性別無回答	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	80.0%	5
全　体	38.0%	46.2%	10.6%	20.4%	4.9%	4.0%	2.2%	5.2%	14.1%	4.2%	4.1%	1,436

● 全体では、「２．自分の問題として」が 46.2%で最も高く、「１．活動に積極的に参加」38.0%、「４．そっとしておく」20.4%、「９．わからない」14.1%、「３．被差別部落の人の問題」10.6%と続く。

年代別でみると、どの年代も「２．自分の問題として」の割合が高い。特に、40 才代は 54.5%、50 才代は 52.3%と高率である。また、20 才代～60 才代は、「１．活動に積極的に参加」の割合も高い。一方、70 才以上は、「４．そっとしておく」が 37.4%で最も高く、「３．被差別部落の人の問題」も 25.2%と高い。

男女別でみると、「１．活動に積極的に参加」、「２．自分の問題として」は、女性の方が 5～6.5 ポイント程度高く、「３．被差別部落の人の問題」、「４．そっとしておく」は、男性の方が 5～7 ポイント程度高い。

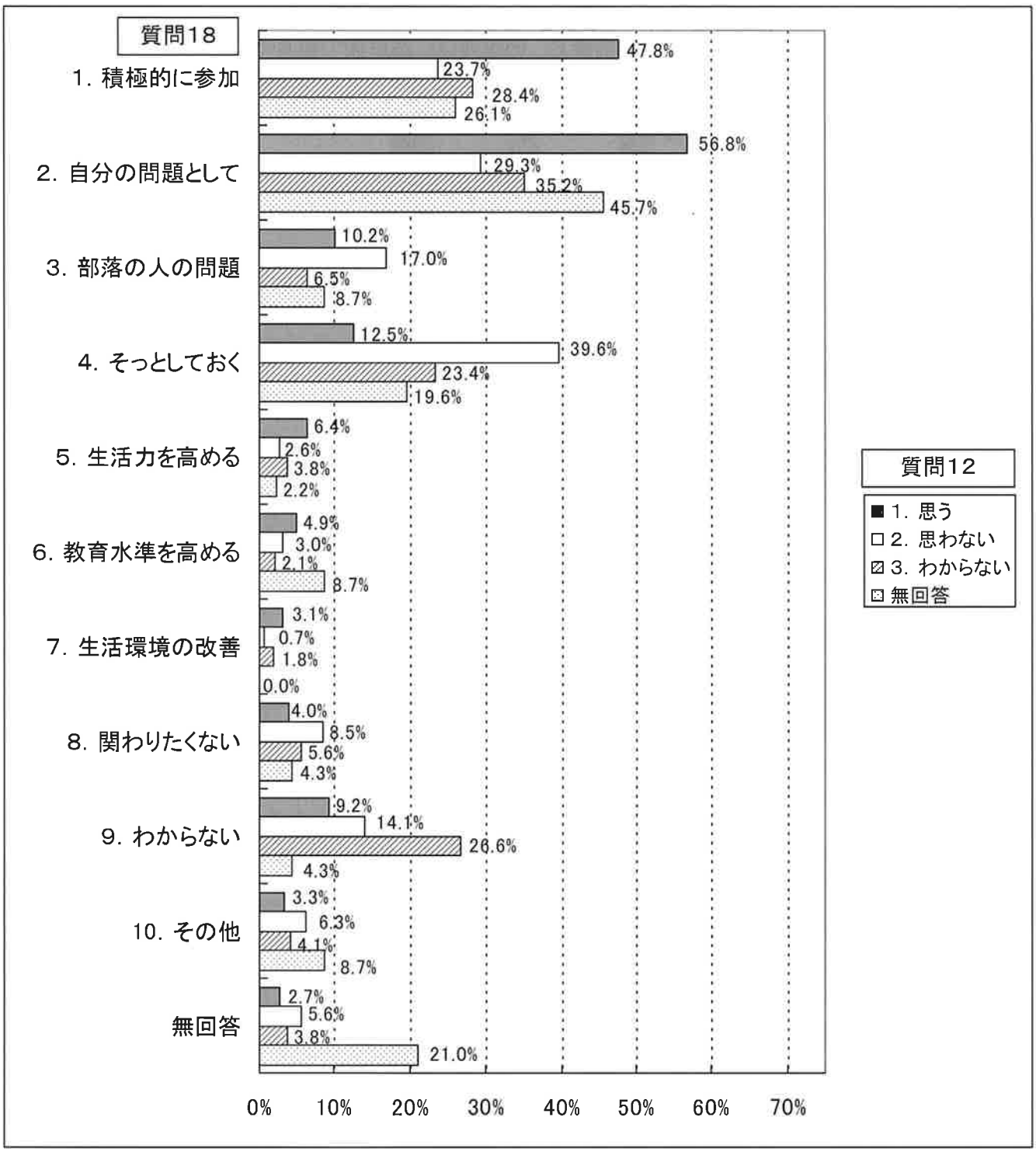
【質問１８（部落問題の解決方法）と質問６－１（研修会等への参加回数）との関連】



● **研修会等への参加回数の増加にともない「１．活動に積極的に参加」、「２．自分の問題として」とする積極的態度の回答の割合が高くなっている。**これは「参加したことがない」人と比べ、「10回以上」では「１．活動に積極的に参加」が 63.6%、「２．自分の問題として」は 65.2%と、いずれも２倍以上の大幅な増加を示している。

一方、「４．そっとしておく」という自然解消論、「３．被差別部落の人の問題」とする部落責任論の回答は、研修会等への参加回数の増加とともにその割合が減少している。ことに、自然解消論は「参加したことがない」人は 25.1%であるが、「10 回以上」では 6.8%と 18.3 ポイント低い。

【質問１８（部落問題の解決方法）と質問１２（部落差別の存在の認識）との関連】



● 部落差別が今でもあると「思う」人は、積極的態度である「２．自分の問題として」が 56.8%で、「思わない」人の 29.3%より 27.5 ポイント高い。また、「１．活動に積極的に参加」も 47.8%で、「思わない」人の 23.7%より 24.1 ポイント高い。

一方、部落差別が今でもあると「思わない」人は、「４．そっとしておく」という自然解消論が 39.6%と最も高く、「思う」人の 12.5%より約 27 ポイント高い。また、「３．被差別部落の人の問題」とする部落責任論は 17.0%である。

部落差別の存在を認識している人は、部落問題の解決を自己の課題として行動するという積極的な意識、態度を示しているが、部落差別の存在を否定している人は「そっとしておけば自然になくなる」とする自然解消論や部落責任論の考え方を保持している。

まとめ

本調査は、琴浦町誕生後初めての意識調査で、旧町並びに合併後の琴浦町における人権・同和教育及び啓発推進の現状を把握し、その評価と今後の課題を明らかにするものです。

今後は、町民の意識実態を、年代別、男女別等の属性により、その背景、要因等を掘り下げ、より効果的な教育・啓発の推進に努めます。

1．研修会等への参加実態から

過去 5 年間に 1 回以上研修会等に参加したことがある町民は 63.3%。一方、32.7%の町民は参加したことがなく、特に、20 才代、30 才代、40 才代男性、70 才以上女性の学習経験が少ない。

しかし、県の「同和問題についての県民意識調査」〔平成 17 年（2005 年）〕との比較では、各年代とも学習回数別で上回り、学習経験がないとする回答は、各年代とも大きく下回っている。これは、本町の積極的な取り組みの成果といえる。

（1）研修会等への参加回数が多い人の傾向

① 学習経験が増えるほど、人権に対する認識や、人権侵害、差別が自分自身に関わる問題であるとの理解が深まっている。

② 部落差別の存在認識の割合が高く、差別行為への対応や部落問題の解決方法について、積極的態度の回答の割合が高い。

③ しかし、これまでに参加した講演会や研修会等の感想を見ると、「参加したことがない」人よりも、肯定的、積極的な回答の割合が減少し、否定的、消極的な回答の割合が高い。

（2）研修会等への参加回数が少ない人の傾向

① 【質問６－４】で不参加の理由を聞いているが、20 才代～30 才代は「研修会等があることを知らなかった」とする割合が高く、40 才代以上は「知っていたが参加する気がなかった」と、無関心、拒否的な回答が極めて高い。その他、「仕事や育児のため」「家族の誰かが参加していたので」「高齢のため、健康上の理由」が多く見られる。

② 20 才代は、研修会等に参加したことがない人が 6 割近くに上るが、差別行為への対応を見ると、問題解決に向けた積極的回答の割合が高い。これは、学校教育の成果といえる。しかし、人権についての認識や部落差別の存在認識は低く、さらに、研修会等の感想では「学校で教わることで逆に意識する」「教えない方がいいのではないか」といった「寝た子を起こすな」的な意見、部落問題の解決では「自然解消論」の回答の割合が高い。

2．今後の課題

① 年代別や男女別など、住民の生活スタイルに即した研修機会の拡充と周知方法の工夫が必要である。若年世代については職場や地域での、高齢世代については地域や社会教育団体での学習機会及び学習環境の整備を図っていく必要がある。

② 人権は、人が生きていく上で必要不可欠なものである。人権が一人ひとりの生活や仕事と結びついているという認識を促す学習が必要である。また、自分にどのような人権が保障されているのかを知るためにも、法や法的権利について学ぶことも重要である。

③ 様々な人権問題について学ぶことは、問題解決に向けて重要であるが、「部落問題」や「障がいのある人の人権問題」など個別の人権問題のみの学習では、他人事と受け止められる可能性がある。地域や生活の中にある人権や人権問題について話し合い、問題解決の方向を見出していくような学習や、自分自身の問題としての気づきや自覚を促す学習が必要である。

④ 部落問題は人権問題を考える重要な柱である。様々な人権問題について、それぞれに固有の課題を踏まえながら、その根底に共通する構造を見極め、効果的な教育・啓発方法を開発することが必要である。

第１回　琴浦町人権・同和教育に関する意識調査報告書＜概要版＞

平成 23 年（2011 年）8 月発行
発　行：琴浦町
事務局：琴浦町教育委員会事務局　人権・同和教育課
〒689-2303　鳥取県東伯郡琴浦町徳万 266－5
琴浦町生涯学習センター　まなびタウンとうはく内
電話（0858）52-1162　ＦＡＸ（0858）52-1122